

1ヶ月間という短い間でしたが、新城市民病院にて研修させていただきましたありがとうございます。
新城市の第一印象は「道が二車線走行じゃない！」でした。1番のネックは151号線が一車線になってからで、毎朝8時過ぎに病院に着こうと思うとたいてい7時過ぎに自宅を出発すれば良いのですが、たまたま出発が遅れるとひどい渋滞に巻き込まれることとなりドキドキ緊張しながら通勤したことが思い出されます。やっとの思いで到着してから参加する朝の勉強会は、一方で毎回大変興味深く、自分自身の知識がどんどん増えていくことを実感しました（ただ単に勉強不足ということもありますが）。特に印象的であったのは松久先生の論文の読み方についての勉強会で、これまで論文を読むということは漫然と全訳することだと思っていたので“読んだ気になっていただけ”ということを実感しました。また、全訳しようとする英単語に不慣れなため大変な労力が必要で苦手意識を持っていたのですが、どのような論文をどのような点に注意して読むのかということをお教えいただいたからは論文を読むことが楽しくなりました。同時に、注意すべきバイアスの評価や解釈については多岐にわたっているということも実感し、論文を読むことの難しさについても思い知らされました。作手診療所でご一緒させていただいた名郷先生はEBMのスペシャリストですが、その偉大さを改めて実感しています。新城市民病院では毎月名郷先生と勉強会が行われているとのことで、本当に素晴らしい取り組みをされていると思います。

実習については、総合診療科の先生方にお世話になりながら外来を行ったり、作手診療所、地域連携、サマリアの丘、訪問看護、訪問リハビリ、しんしろ助産所などを見学させていただいたりと様々なことができました。例えば、助産所では急速BLSについてレクチャーすることになりました。助産所では毎月BLSの講習会を行っているそうで普段は救急での勤務経験のある看護師さんがレクチャーされるそうなのですが、たまたま私が見学に伺った際には助産師の方がレクチャーを行っていました。実際に救命された経験がないとのことで、私が普段救急外来で気をつけていることをお伝えしましたが、今後の改善点が見えたとのことで少しでもお役に立ててよかったと思います。

助産所は新城市のお母さんたちにとって大変重要な場所です。実際に出産が行われることは限られている一方で、お母さんたちの憩いの場になっているようで、どんなことでも気軽に助産師さんたちに相談できるところが素晴らしいと思います。新城市では救急要請から現場到着までの時間が全国平均に比べ5分ほど長いとのことで、いかに広い範囲を限られた数の救急隊でカバーしなければならないのかを思い知りましたが、そのような状況でお母さんたちが緊急時に対応できるようになりたいという思いから助産所での講習会が始まったそうです。そのことをたまたま転院搬送で3回もお世話になったご縁のある救急救命士の方にお話したところ、ぜひ協力したいとのことでした。新城市は医療資源が限られている一方で市民のみなさん方のつながりが強いことを実感し、本当に素晴らしいことだと思います。虐待の件数が少ないこともその一つで、学ぶべき点がたくさんあるなと思いました。

最後になりましたが、総合診療科の先生方はじめ、他科の先生方、看護師の方々、コメディカルの方々、事務の方々には大変お世話になりましたありがとうございます。重ねてお礼申し上げます。

今後も貴院で学んだことを活かし、より良い医療が提供できるよう精進して参ります。

本当にありがとうございました。